

中干しの適期実施で良質茎確保を！

1 田植え後の水管理（中干しまでの注意点）

- (1) 活着後は水深2～3cmの浅水管理として水温上昇に努め、分けつの発生を促しましょう。
(2) 気象庁の1か月予報（5月13日発表）では気温は平年比高い、日照は平年比少ない、降水量は平年比多いとみられます。中干し開始時期以前にワキ・表層剥離が多発する場合は夜間落水を実施しましょう。

2 適期中干し・溝切りの徹底

注意

例年、中干し開始が遅れ茎数過剰となるほ場が見られます。良質茎の確保による倒伏軽減、玄米品質の向上のために、適期中干しを実施しましょう。

(1) 中干し・溝切りの方法

- 田植後25日頃に稲株の茎数を確認し、コシヒカリでは目標穂数の7～8割（例年生育過剰となるほ場は、目標穂数の6～7割）の茎数を確認したら、ただちに中干しを始めましょう。遅くとも田植え30日後には中干しに入るようにしてください。
- 中干し効果を高めるため、梅雨入り前までにはほ場の溝切りを行いましょう。

表 品種別中干し適期のめやす

品種	地域	田植日	目標穂数 (本/m ²)	中干し適期の茎数			中干し開始 時期めやす	
				(本/m ²)	1株当たり茎数(本/株)			
					50株植	60株植		70株植
つきあかり	平坦地	5/5～10頃	340	270	—	15	—	6月5日頃～
	中山間地	5/15～20頃	320	260	—	—	12	6月10日頃～
こしいぶき	平坦地	5/10～15頃	380	300	—	17	—	6月5日頃～
	中山間地	5/15頃	360	290	—	16	14	6月10日頃～
コシヒカリ※	平坦地	5/10～15頃	360	250～290	17～19	14～16	—	6月10日頃～
	中山間地	5/15以降	320	220～260	—	12～14	11～12	6月15日頃～

※コシヒカリの中干し開始は目標穂数の7～8割とする。

中干し・溝切りのポイント

- 溝の間隔は8～10条おき（2.5m程度の間隔）、深さは10cm以上とし、溝の末端は必ず排水溝につなげる。
- 中干しの程度は、田面に小ヒビ（幅約1cm程度）が入り、軽く足跡が残る状態。
- 例年倒伏するほ場や大豆跡等、生育過剰となりやすいほ場は「強めの中干し」を実施する。



【溝の末端を排水口に接続した状態】



【適正な中干しの状態】

(2) 中干し終了のめやす

- 幼穂形成期（出穂の23～25日前頃）まで中干しを継続すると根の張る範囲が小さくなり、高温による品質低下になりやすいため、遅くとも出穂の1か月前（早生は6/25頃、コシヒカリは7/5頃）には終了しましょう。

3 病害虫対策

(1) いもち病防除

- ほ場に放置された補植苗は、いもち病の伝染源となるため、早期に除去しましょう。
- 以下の場合には、本田施用の予防粒剤を施用してください。施用時期は6月10日頃までとし、施用後は確実に止水した上で7日間はたん水状態を保ちましょう。施用時期は中干し時期と重ならないよう計画しましょう。
 - ア 飼料用米等の多収性品種で田植時に箱施用の予防粒剤を施用していない場合。
 - イ コシヒカリ BL のほ場で、いもち病多発地に作付けし、箱施用の予防粒剤を施用していない場合。

(2) 斑点米カメムシ対策

- 高温傾向で雑草の生育が旺盛と考えられ、畦畔等雑草地での密度が高まる恐れがあります。
- 斑点米カメムシ類の密度抑制には、イネ科を中心とする雑草が開花・結実する前の草刈りが有効です。5月下旬以降、3～4週間隔で草刈りを実施しましょう。